香川県農業試験場研究報告　第 12 号(1961 年 12 月)　 20-24

てん菜に対する MH-30 の撒布が根重及び根中糖分に及ぼす影響
第 4 報　秋播きてん菜における春先き追肥と MH-30
の撒布が根重及び糖度に及ぼす影響について

末沢一男・多田正敏・安部秀男・村井修・山本保

ビートに対する追肥と MH-30 との相関を知る目的で 0.15%の MH を普通品種の導入 2 号に 3 月 30 日と 4 月 10 日の 2 回、抽苔耐性品種の KW-AA は 4 月 3 日と 4 月 10 日の 2 回 CesenaNSA に 4 月 10 日の 1 回夫々撒布した。又追肥は 2 月 23 日に 10 アール当り、チリ硝石 62.5Kg、過石 62.5Kg、塩化加里 16.7 kgを施用した。その結果は下述のとおりである。

１．追肥により根重は増加するが糖度は下降する。

２．MH-30 の撒布により糖度は上昇するが根重は Cesena-NSA は増大し他品種は幾分抑えられた。

３．純糖率は MH の撒布により一般に 1%以上、上昇するが追肥によっては 1～2%下降する。

４．可製糖量は之等の相反する性質が相殺される、3 品種の平均では追肥区が無追肥より僅かに多い。MH-30 の撒布によって Cesena NSA では増加したが他品種は減少している。又無追肥の MH 無撒布区に比べ追肥の MH 撒布区は各品種共増加している。

５. 品種間では CesenaNSA の可製糖量が最も多く 6 月 13 日に追肥 MH 撒布区で 10 アール当り 584.7Kg が最高であり、次いで KW-AA で導入 2 号は最も少なく CesenaNSA の 1/2 程度であった。